



日本財団助成事業

地域生活の視点で学ぶ重度身体障がい者の暮らしー「地域で暮らす」を覗いてみよう実施報告

特定非営利活動法人 境を越えて

目次

I.	はじめに	2
II.	活動報告	
1.	会議録	
	第1回会議	
	第2回会議	
	第3回会議	
	第4回会議	
	第5回会議	
	第6回会議	
	第7回会議	
	第8回会議	
	第9回会議	
	第10回会議	
	第11回会議	
	第12回会議	
	第13回会議	
	第14回会議	
	第15回会議	
	第16回会議	
	第17回会議	
2.	大学講義	
	帝京平成大学	
	日本医療大学	
	東北文化学園大学	
	杏林大学	
3.	学生体験受け入れ先募集説明会	
	－別紙資料1	
III.	まとめ	

I. はじめに

本報告は、“地域生活の視点で学ぶ重度身体障がい者の暮らし”カリキュラム拡大のための仕組み作りで実施した①講師、見学・体験受け入れ当事者増員のための説明会と勉強会の開催 ②モデルカリキュラムの実施と連携構築③カリキュラム開催ノウハウのパッケージ化の内容についてまとめたものである。①は新規大学での開催もあり20名の当事者の方とのコンタクトが可能となった。②は継続2校、新規1校で開催し、継続校では単位化に向けた具体的なカリキュラム構成の調整なども行っていった。また、②に向け準備したテキストに教則本を追加し波及のための準備も行うことができた。

II. 活動報告

1. 会議録

第1回会議

① 概要

日付：2022年4月11日

方法：zoom

参加者：千葉早耶香、本間里美

② 内容要旨

・2022年度の予定案構築

③ 詳細内容

全体ミーティング前の準備

第2回会議

① 概要

日付：2022年4月17日

方法：zoom

参加者：江口健司、千葉早耶香、本間里美

② 内容要旨

・2022年度開催の2日目のカリキュラム内容について方向性の確認

③ 詳細内容

・ディスカッションを多めにしたカリキュラムに変更するための素案を出しあった。

第3回会議

① 概要

日付：2022年4月28日

方法：zoom

参加者：吉澤卓馬、川村由里、向山夏奈、江口健司、長田直也、小田瞳、千葉早耶香、本間里美、櫻井こずえ

② 内容要旨

・2022年度の予定確認

③ 詳細内容

■スケジュール、進捗確認 スタッフの日程調整

8月8, 9, 10, 11, 12日(帝京平成大学)

9月7, 8, 9, 10, 11日(日本医療大学)

9月15, 16, 17, 18, 19日(東北文化学園大学)

スタッフ分担は別資料参照。

■2022年度版カリキュラム時間割変更

2, 5日目については添付の通り

■2022年度版テキスト作成 目次読み合わせ

- ・全体を通して目的、目標確認をする 学生にとって何をどこまでどのように伝えるべきか

1日目:

- ・目次の見直しが必要 全体像が見通せるような内容へ
- ・訪問薬剤師について内容修正(役割と業務、生活の全体像を把握した上での薬剤の提供)
- ・ケアマネと相談支援専門医については仮で福祉編に追加
- ・テキストにJILやCIL、JPA等団体に関しての内容を追加

2日目:

- ・事例検討については「問い」の立て方を工夫する(テキストよりも講義時の注意)
- ・自律神経症状に関しては排尿障害のほうが現実に即しているなのでその事例で追加する
- ・明確な答えはないが、まず考えてもらう視点を持つこと、が講義時には必要
- ・コミュニケーションに「人を介した」という視点を追加

3, 4日目はテキストとしての項目はなし。

5日目:

- ・語りがメインの内容のため、テキストはエッセイ形式に変更

その他

- ・境を越えて以外のスタッフでも講義を担当できるように調整

■テキスト作成スケジュール(予定)

5月20日テキスト作成→5月27日に本文の読み合わせを行う(MTG)→各自修正

6月中にテキストの完成

第4回会議

① 概要

日付: 2022年5月27日

方法: zoom

参加者: 吉澤卓馬、川村由里、向山夏奈、江口健司、長田直也、伊藤菜緒、千葉早耶香、本間里美、櫻井こずえ

② 内容要旨

- ・目的と目標の確認
- ・進捗状況の共有

③ 詳細内容

■目的・目標の確認 以下で決定

目的：地域医療・福祉の充実に貢献できる人材の姿勢を知る

目標：

1. 地域で暮らしている当事者の生き方の多様性に触れる
2. 地域で暮らしている当事者の生活にかかわる職種やそのかかわり方を伝えられる
3. 多職種連携の中で、自分の専門性をどのように生かしたら良いか主体的に考えることができる
4. 地域生活に様々な社会制度が関連していることを知る
5. 生活を支えている介助者の役割や専門性について知る
6. 障害を社会モデルの視点で見られるようになる

■全体の流れの確認、相談事項共有

目次修正

1日目 IIかかわる「人」

医療、福祉に分けて、それぞれの根底にある考え方を追加。

医療職に求められるスタンスを2日目に追加

薬剤師やマッサージ師は、説明省略して、職種の紹介をする。保健師も追加。

III地域で暮らす

介護制度の項目を追加、介助者の説明は「より充実した暮らし」部分に移動する。

地域で暮らす中で必要な医療制度との関連を追加。

⑤車いす（PT・OTとの連携についても追記⇒小田さんサラッとでいいのでお願い）

⑥障害のある人と医療制度「風を引いたら・・・」などの事例とともに（制度詳細についてはIIで説明しています、と補足⇒小田さんサラッとでいいのでお願い）

2日目

医療者のスタンス追加。スピリチュアルペインは心理面へ移動。事例はそのまま使用。

介助者は、江口さんの哲学がシンプルな文章だと伝わらないので、事例や講義時の説明を追記。

コミュニケーション 山本さんに相談して目次変更した。講義時に素材が必要であれば山本さんに適宜相談。

5日目

「学生時代の介助経験を振り返る」は冒頭ではなく、最後に移動（講義は最初）

■カリプロ受け入れの現状共有

東北文化学園大学の協力当事者が少ないので、山形在住の方にも相談中。

北海道は江口さん経由で3名と深瀬さん了承済。

向山さん経由で相談。

■原稿について

テキストは自分が学生だったときにどんな内容ならテスト勉強しやすいかを想像して書きましよう。

伝えたいことは端的にまとめる。

■今後のスケジュール

今年9月の北海道で講義は終了。その後、3月までに、テキストと教則本を完成させるのが目標。

第5回会議

① 概要

日付：2022年7月1日

方法：zoom

参加者：吉澤卓馬、川村由里、向山夏奈、江口健司、長田直也、千葉早耶香、岡部宏生、本間里美、櫻井こずえ

② 内容要旨

- ・テキスト作成について

③ 詳細内容

■テキスト実際の共有と課題の整理

今回は1日目部分のみ修正。

- ・岡部さんの導入部分は講義全体のはじめに、のところへ移動。
- ・「地域で暮らす」部分の導入は、なぜ岡部さんが地域で暮らしたいか、の話を追加。
- ・章の初めに導入の文章を追加する。
- ・各職種の役割については各職種の方へ確認。
- ・訪問看護師→川村、ST→山本さん、ケアマネ、相談支援専門員
- ・各職種が岡部さんの一条に関わっている図は、修正する。人数は文章で追加。
- ・補助金については地域差があるので、国の保障+地域ごとの制度
- ・サービス支給決定について、実例を追加
- ・介護保険は利用の実際についてのみ記載
- ・海老原さんの仕事の話は、順番を再考。
- ・団体の紹介文章修正

■原稿完成に向けてのスケジュール。提出締め切り

1日目テキスト修正は7月11日までで、最終原稿締め切りは8月1日、8月8日までに完成予定。

2. 当事者受け入れ状況と学生参加人数の現状共有

帝京平成、日本医療、ともに当事者の枠は埋まった。

帝京平成の学生は20名で決定。

3. 帝京平成のスタッフ陣の担当決定（櫻井・表）

4. 日本医療大学のスタッフ陣の担当決定（櫻井・表）

5. 東北文化学園大学のスタッフ陣の担当決定（櫻井・表）

→確認

第6回会議

① 概要

日 付：2022年7月5日

方 法：zoom

参加者：吉澤卓馬、向山夏奈、江口健司、長田直也、千葉早耶香、本間里美、櫻井こずえ

② 内容要旨

- ・テキスト修正

③ 詳細内容

■2日目テキスト修正

(千葉)

- ・日本語チェックなど細かいところはコメント通り変更
- ・ナラティブアプローチの事例を検討する
- ・「受容について」岡部さんコメント追加
- ・「治療の継続」による苦痛を修正

治したい人(薬の開発とか)もいるし、呼吸器をつけて発信をしている人の存在もある

- ・社会的苦痛を追加
- ・スピリチュアルペインをバイオサイコソーシャルモデルのあとに補足的に入れる。

(江口)

- ・日本語チェックのみ
- ・米沢さんの写真は許可が下りたら追加

(吉澤)

- ・夏奈さんのコメントつきファイル参照
- ・終盤のメッセージは、2つのメッセージがあるので書き方を検討
- ・先読みをうまく取り入れているチームの話を追加

■事例をもとに考えよう GW

- ・進行は江口、医療的な視点が必要なときは千葉が補足
- ・冒頭は、事例をどんどん説明して考える訓練、後半はGW
- ・GWについては、考えるヒントの文章を追加
- ・学生に何をしてもらおうのかをもう少し具体的に

■今年度の時間割

■テキスト校正について

- ・文章中引用は「～。1」」で最後に文献リスト記載
- ・画像引用は画像下に出典をのせる
- ・コメントや変更履歴は問題がなければすべて承諾して、更の状態で提出

第7回会議

① 概要

日 付：2022年7月11日

方 法：zoom

参加者：川村由里、向山夏奈、長田直也、千葉早耶香、本間里美、櫻井こずえ

② 内容要旨

- ・テキスト修正

③ 詳細内容

■「学生時代の介助体験を振り返る」

- ・ページ数に関係なく内容を追加、その後再修正
- ・学生時代の介助経験が、医療職者としてどのように活かしているのか(岡部さんへの自己開示エピソードなど)
- ・PPT も完成しているので、ノート部分をチェックしてもらい、適宜コメントをもらう

■「障害って何？」

- ・見学体験をしてきた学生の経験が生きるような内容に、適宜具体例を追加する
- ・権利条約以前の障害の概念について、地域生活に焦点を当てても良い
- ・「権利条約以前の障害者の概念」のタイトル修正、2006年～以降の文章をこちらへ移動。
- ・差別の話とインクルージョンの話は分ける。合わせて例を見直す。
- ・インクルーシブな社会は誰もが生きやすい社会、という話を学生自身が自分のこととして考えられるように、具体例を足す。直後のGWへつながる内容にする。
- ・合理的配慮の具体例を追加。医療系の学生が身近に感じるような例も追加（Ns コールを腕につけた・・・）
- ・最後のまとめ文章に具体例を追加

■そのほか

- ・小田瞳さん部分はコメントでのやり取り
- ・障がい表記については団体で障がいと定めたので（当たり障りないから）今回は制度など以外は障がいにする
- ・テキスト冒頭に障がいの表記については記載する、岡部さん確認
- ・最近の流れとしてはしょうがいは社会のがわにあるものだから障害と表記
- ・今後は修正済みファイルをドライブ上に保存し、更新した旨を LINE にのせる

第8回会議

① 概要

日 付：2022年8月3日

方 法：現代書館

参加者：向山夏奈、千葉早耶香、

② 内容要旨

- ・テキスト製本

③ 詳細内容

- ・帝京平成大学使用分を製本

第9回会議

① 概要

日 付：2022年8月10日

方 法：zoom

参加者：川村由里、向山夏奈、長田直也、阿形志穂、千葉早耶香、本間里美

② 内容要旨

・帝京平成大学3日開催の可能性について

③ 詳細内容

現在開催している5日開催を3日開催に変更する場合の要点の整理

第10回会議

① 概要

日 付：2022年8月20日

方 法：zoom

参加者：長田直也、小田瞳、千葉早耶香、本間里美

② 内容要旨

・日本医療大学と東北文化学園大学の1日目に向けて

④ 詳細内容

見学・体験に学生が行く前にフェイスシートを見ながら質問を考える練習の時間として新規に設ける講義内容について

第11回会議

① 概要

日 付：2022年8月25日

方 法：zoom

参加者：千葉早耶香、本間里美

② 内容要旨

・日本医療大学・東北文化学園大学の見学・体験当事者の方の状況把握

③ 詳細内容

・受講生に比較して学生受け入れ当事者が少ないことに対する対策案を検討

第12回会議

① 概要

日 付：2022年8月27日

方 法：zoom

参加者：吉澤卓馬、本間里美

② 内容要旨

・日本医療大学の2日目に向けて

③ 詳細内容

・コミュニケーションの講義内容では、地域のコミュニケーション支援者らの協力を得る必要が

あることからその内容について検討

第13回会議

① 概要

日 付：2022年9月1日

方 法：現代書館

参加者：向山夏奈、千葉早耶香、櫻井こずえ

② 内容要旨

・テキスト製本

③ 詳細内容

・日本医療大学と東北文化学園大学分を製本

第14回会議

① 概要

日 付：2022年10月11日

方 法：zoom

参加者：吉澤卓馬、川村由里、向山夏奈、江口健司、長田直也、阿形志穂、千葉早耶香、岡部宏生、本間里美、櫻井こずえ

② 内容要旨

・今年度開催の振り返りと今後に向けて

③ 詳細内容

■現状、今後について共有

テキストは今年度中に完成して来年度外部評価を受けて、財団に申請できるようにする。

教則本の作成に取り掛かり、講師のできる人材育成につなげる

■今年度カリプロ振り返り

1日目：

スタンスはやっている人じゃないと伝わらないので、次期講師の参考にする

いろんな職種は全部に関わったことがある人じゃないと説明できない。特に相談支援員などの職種はインタビュー映像を作成するなどの工夫が必要。

「地域で暮らす」は内容が整理されているから、誰にお願いしても出来る

2日目：

学生を都度巻き込んで都度、感想をもらう、言葉をもらうのは良い方法だった

事例検討は自分の考え方にこだわらない、という問い掛けで反応が良かった。事例の対象者を変えてもうまくできた。

疾患の話はフェイスシート見て絡めながら説明の必要がある。

江口さんの内容は玄人向けなので、仙人グループが作成する動画を活用するなど、事前に経験していない学生に伝わる工夫がいる。

それぞれの地域のコミュニケーション支援者とのコラボは今後も継続したい

口文字を活用している当事者が多かったので、実践もできたら良い。方法を考える必要がある。

見学体験：

巡回者の役割を改めて考える必要がある。

受け入れに慣れていない人、初めての当事者には巡回が必要

当事者や支援者が学生の受け入れを検討してくれたのは良い機会だった

学生に印象に残った場面を写真と文章にして記録してもらう*

可能な限り、介助者にはどのようなことを考えて支援をしているのか、その瞬間に何を考えて何をしたのかを言語化して学生に伝えてもらうと良い（追加）

やっていたかもしれないけど、見学体験の終わりに一日を振り返ってどのようなことを考えた、とか、実践を踏まえた感想を振り返って言葉にして伝えてもらいたい（追加）

グループワーク（GW）と発表：

*体験の写真と文章をGWで共有する

GWは正解を定めない方が良い。

障害を自分ごとにして捉えるところで、みんな辛い体験探しを無理やりしている印象がある
ディスカッションを形にしなきゃじゃなくて、意見を共有する場があれば良い。突き詰めすぎなくても良い。

私達が求める言葉がなにかを考えてからひねり出してくれる。

自分におき変えてどう？という問いはむずかしい

発表する回数は2回で十分（体験の共有と障害って何？）

体験の共有の仕方がわかっていないので、大枠を提供すべき

難しい問いかけをするまえに、目的と前提と材料を揃える必要がある

発表が下手

見学体験は共有する目的があるからこそ、一定のクオリティがないと目的が達成されない

発表ではなくて各グループ一人ずつ当てて、あなたはどうでしたか？と聞く方法にする

全体について：

目的確認は毎日実施

5日で学生同士も、スタッフとも仲良くなるので、声をかけやすい。次にもつながる。

特に、本間、長田、千葉のテキストに関しては分量が多いため内容の絞り込みが必要。講義は1/3くらいに減らして焦点化する

事務・その他：

講師陣は前日入りにする

映画は字幕つける

グループの男女比を考慮する

地域との繋がりなど境の活動の中でも、カリプロは全体を盛り上げてくれている

学生の言動で気になったところは先生にフィードバックした方が良い。

広報用の写真は支援者や家族、学生が撮影したものを活用できたら良い

① 概要

日 付：2022 年 12 月 9 日

方 法：zoom

参加者：江口健司、向山夏奈、長田直也、川村由里、吉澤卓馬、千葉早耶香、岡部宏生、本間里美、櫻井こずえ

② 内容要旨

- ・難病ネットワーク学会の報告
- ・杏林大学開催について
- ・来年度に向けて

③ 詳細内容

■難病ネットワーク学会発表内容と反応について

- ・“地域生活の視点で学ぶ重度障がい者の暮らし”カリキュラム化プロジェクト第2報
—3校でのモデルカリキュラム実施から見えた成果と課題—

- ・“地域生活の視点で学ぶ重度障がい者の暮らしカリキュラム受講後アンケートから見えてきたこと

■テキスト教則本の状況について

■杏林大学向について

対象：医学部 3 年生 120 名（今年度プレ開催実施済みで、瞳講義、学生代表者体験 8 名が瞳、岡部宅で介助体験済み）

講義枠：必修科目（全額大学負担）

開催形式：講義 1 日（75 分×4 コマ）+体験 1 日（1 日 30 人×4 日）+講義 1 日（75 分×2 コマ）

開催時期：講義 1 日目 8 月末で整中、体験 9 月土曜日 4 日間、講義最終 9 月末で調整中

■来年度開催予定大学についての現状での予定共有（別紙2）

■連携協力組織との関係性について

■今後のスケジュール状況

12月 来年度実施大学との日程調整、実施内容検討、新規協力組織との関係性構築

1月 テキスト教則本編集 / 受け入れ当事者への説明 新規講師プレ講義

2月 テキスト教則本編集 / 受け入れ同時者への説明 新規講師プレ講義

3月 日本財団報告書まとめ / 完成版・テキスト増刷 / 教則本完成

■来年度に向けて

1. 【継続・大学予算検討中】帝京平成大学

①選択教科への導入

②フレッシュセミナーの選択の一つ

③他学部への取り入れ

※現状では②は確実で、大学予算内での実施可能性について検討中

2. 【継続・大学予算決定】東北文化学園大学

選択教科（大学予算）：時期検討中

3. 【継続・仕組み作り・助成金】日本医療大学
特別授業枠（日本財団助成事業への予算に盛り込み）：今年度と同時期がベスト
4. 【新規・大学予算】杏林大学
必修科目（大学予算）
5. 【新規・助成金】関西方面
協力者との初顔合わせ日程調整中、協力可能大学は大阪、京都それぞれ1校候補
6. 【新規・助成金】関東又は東北1件 ※予算上は計上しています。

第16回会議

① 概要

日付：2023年1月20日

方法：zoom

参加者：江口健司、向山夏奈、長田直也、川村由里、吉澤卓馬、千葉早耶香、岡部宏生、本間里美、櫻井こずえ

② 内容要旨

- ・来年度に向けて
- ・テキストと教則本の進捗状況

③ 詳細内容

■京都開催に向けての状況について

- ・1月15日（日）境を越えて×ある（京都の訪問介護事業所・活動家）キックオフ MTG 実施
- ・1月21日-22日@京都にて、カリキュラムプロジェクト説明実施、当事者の方を募る予定（岡部・向山・櫻井・本間）
- ・1月22日@京都にて、京都光華女子大学看護学部准教授西田先生と MTG 予定（岡部・本間）

■杏林120名対応のための受け入れ当事者確保状況

- ・1月26日（金）全国脊髄連事務局長安藤氏への活動説明と協力依頼予定
- ・1月24日（火）八王子ヒューマン（CIL）の事務局、JIL事務局への訪問と活動説明

■医療福祉系大学、専門学校以外の大学へのカリプロの波及の可能性について

- ・社会学部との連携－障害者運動の歴史理解の重要性から介助者の視点の大切さや、障がいの個人モデルから社会モデルへの変化を学んでもらえるようなものを考えても良いのではないかな。
- －対象と目的を誰、どこにするかによって検討すればいいのでは。
- －カリプロの良さは医療系の方が多いこと。なぜ京都に障がい学の方が多いのに地域医療の連携が取り上げられてこなかったのか。私たちが持っていないものも京都は持っていると思うが、下地がしっかりあるところに入っていき難しさ。京都の下地で作ると、今の重訪研修と変わらないのではないかな。講師も医療職でなくて、社会学系の方になってしまうかも。そうすると、カリプロではなくなるのではないかな。
- －当事者への研修、教育が必要ではないかと言われた。活動の経験がない当事者のところへ行くと学びが少ない。私たちと同じ方向を向いている当事者を選定していったほうがいい。当事者教育は他のプロジェクトへ。

－「教育が必要」「選定」と言われると当事者として寒気がする。見せかけの地域で暮らす当事者になってしまう気がする。とはいえ、今のままでいいと思っているわけではない。

－目的と目標はもっとしっかり伝えていく必要はあると感じている。

■新規講師人の打診、育成状況について

・地域で生きる：高野元、山田洋平（既に 2022 年度講師実施により確定）、飯島伸博（名古屋の難病マンションに住む 40 代男性 ALS）に打診済みで、チャット形式で原稿を作成中

・地域で支える：千田香（打診済み）1 月 28 日方向性説明予定（吉野内科で勤務経験ある PT、経験 13 年くらい）、鹿野さん（札幌）

・地域で暮らす：久保田（打診済み：脊髄損傷）/吉沢（打診済み：筋ジス）、佐藤順子（打診予定：仙台在住・SMA）

・医療者の視点：（川村由里）、佐藤葉月（打診予定：元学生介助者看護師）、寺田さん（札幌）、鎌上さん（仙台）

・介助者の視点：清水ひとみ、彦田ゆか（打診済み：仙人会メンバー）

・コミュニケーション：鈴木美夏（打診予定：元学生介助者 OT）、秀まおさん

・インクルーシブ：及川（打診予定：仙台在住・脳性麻痺）、久保田、吉沢、山崎恵さん（札幌）

・学生介助者体験談：かけるくん、仙台の長尾さんに入っていた学生（鎌上さん）、札幌

→まずは、各ブース 1 名～2 名を目標に伝達し、育てていく方向でどうか。

■テキスト教則本の状況について－川村・向山

【全体】

・里美さんのと千葉さんのでテイストが大きく違う。

→担当するものしか見ないため、テイストが違うのは良いのではないか。

・思いが足りていないような気がする。

・「なぜテキストでこれを書いたのか（これを教えなければならぬと考えたのか）」が欠けていることが多いと感じた（ゆりちゃんもそのへん問題視してるかな、とコメントをみて思った）。いわば、「ねらい」（目的）の部分がない。ねらいがわからないと、教えるほうもどのような言葉や方法でアプローチするのが適切なのか、検討がつきにくいので、やりにくくなってしまうのかな、と思った。

・教える際やパワポ作成について、どこまでを講師に任せるかにばらつきがあるように感じた。⇒ばらつきはあってもよいが、どこからどの範囲はお任せで、どこからどこまでは絶対に教えてほしいのかは明確にしたほうがよいと感じた。

・「～とよい」「～のようにしてほしい」など、具体的に指示を促すような文言が入っていると読みやすいと感じた。

例：講師自身の経験、これまでに接してきた当事者の話を取り入れてほしい。

・「学生の傾向がこうだったからこうした」というのを入れると良い。

【本間】

・テキストで採用されている小見出しや表記と一致していない部分は直す（混乱するので）

・省いてもいい箇所、省かなくてもいい箇所の明記はあったほうがよいかも

・すべてを入れると多すぎてしまう

【千葉】

・「具体的な表現は講師に任せる」とあり、任された講師が迷わないかどうか、みなさんの意見を聞きたいな～と思いました。本間さんのように、「核となる文言はこのままで、具体例やエピソードはお任せします」という人もいます。

第17回会議

① 概要

日 付：2023年2月17日

方 法：zoom

参加者：長田直也、千葉早耶香、川村由里、向山夏奈、江口健司、吉澤卓馬、本間里美、櫻井こずえ

② 内容要旨

・教則本の修正

③ 詳細内容

■本間分：修正提出済み

■千葉分：もう少しで修正提出予定

■長田分：2月中に1回目を提出予定

■江口分：

・テキストの要約になってしまっている点がある

江口) 違う言葉では説明できない

向山) 教え方のポイントだけにできてしまっているかも

本間) なぜ大切だと思ったかを考えたら書きやすくなった

向山) 江口さんは理由を書いているから意図はわかりやすいから、テキストを読めば済むかも。

・テキストにも追記したほうが良い箇所があるかも (5節について)

江口) たしかにそれを取り上げた理由があるので、それを書けばいいですね。テキストには事例をのせてないから、パワポと合わせて伝わるかなという感じ。

向山) パワポにはこういう事例を入れるといい、と書いてあげるのもいいかも。

川村) 新人の介助者にこのメッセージを送りたいのか、とわかった。

向山) 介助者から介助者へのメッセージ、応援ということ。

江口) それと、人によって考え方がちがうから、一人で悩まないでね、と。

・米沢さんのインタビューは残すのか、地域の当事者紹介みたいに入れ替えていくのか？ (6節について)

江口) 貴重な資料なので紹介したかったが、講師によって発表したいものがあるならそうしてほしい。

本間) 「当事者の介助者に対する思い」を知ってもらえるところかなと思うので、講師によって違っていいし、よい内容だから変えなくてもいい。

江口) 時間が大丈夫なら、米沢さんのあとに自分が持っている事例を出してもいいかも。

■吉澤分：

- ・お願いを含めたスタンスでの支援が重要だと思ったというところ

吉澤) これは自分のスタンスなので、講師自身のスタンスを書いてもらえれば。

向山) そこに理由があって、カリプロ的に大切なスタンスなのであれば、それを伝え続けることも重要かと。

川村) 私もそのスタンスは大事だと思っているから、その理由をもっと書いてほしい。

向山) 初期メンバーの想いは残した方がいいかもしれないし、それを言語化する中で見えてくるものがあるかも。テキストも追加したければ。

- ・体験の時間について

吉澤) 体験もセットで伝えている

・先読みについて。講師の経験によってはこのニュアンスが伝わらないかもしれないから、もっと原則的に記したほうがいいのかも。

川村) 現場では先読みは絶対しないというのあまり見ない。先読みされちゃうのが当たり前な患者さんが多い気がする。先読みが先読みであることを意識してない支援者も多いと思う。念押しとしていれておくと、カリプロのコミュニケーションとしてはいいのかもしれない。

江口) 慣れると効率のよい、というか、利用者にとっての効率を考えると、ということかな

吉澤) その通り。

- ・コラムは講師ごとに差し替えるの？テキストも？パウポだけ？

本間) テキストはそのままで、パウポのみ差し替えて。

- ・位置づけは見学体験の前？

本間) そう

千葉) だとしたら、見学体験で見るポイントはここだよ！と念押しして伝えてほしい、と書いてほしい。そうしないと、コミュニケーションは流れて見てしまうから。

本間) この部分はテキストにも書いてほしい。

- ・講義だけでなく、体験までやるのは講師によっては大変かも。

本間) 来年度は、体験のところは吉澤がリードしてやることにしている。体験に関しては前任者がリードして、または一緒にやるとした方がいいかも。

■追加分：

- ・5日目の進行&ファシリテーター
- ・2日目の事例をもとに考えよう
- ・地域で暮らすを考えよう

■テキストについて：

- ・巻末資料

講師紹介：プロジェクトメンバー紹介に変更

岡部の京都 ALS の資料：変更無し

参考資料（書籍紹介）：海老原さんの、藤本さんの、武本さんの、岡部さんの

■今後のスケジュール確認（プロジェクトチーム）

2月：教則本修正・校正

3月20日：印刷所に入れる
5月～6月：新講師陣らの練習会
8月～9月：帝京平成・杏林大学・日本医療大学
10月～12月：東北文化学園大学
1月～2月：京都開催

■事務局状況スケジュール

2月27日（月）JIL加盟団体へのカリキュラムプロジェクト説明
3月23日（木）京都開催に向けてプロジェクトチーム打ち合わせ（予定）
4月～6月：受け入れ当事者確定

2. 大学講義

帝京平成大学

① 概要

日付：2022年8月8日～12日
場所：帝京平成大学中野キャンパス
参加者：学生20名（看護学科1年生）、体験受け入れ当事者11名

② 内容要旨

・3日間の講義と2日間の見学体験

③ 詳細内容

■公式noteにて報告レポートを作成 https://note.com/npo_sakaiwokoete/n/n611a6104f6ce

■アンケート（受講学生20名回答）

「カリキュラムは満足できる内容でしたか」

→とてもそう思う75%、そう思う15%、あまりそう思わない10%、そう思わない0%

「カリキュラムの目的・目標は分かりやすく示されていましたか」

→とてもそう思う75%、そう思う20%、あまりそう思わない5%、そう思わない0%

「講義の難易度はどうでしたか」

→とても簡単だった10%、簡単だった25%、難しかった60%、とても難しかった5%

「講義の内容に興味・関心は持てましたか」

→とても持てた85%、持てた15%、あまり持てなかった0%、持てなかった0%

「講義の感想を自由に記載してください」

・基礎の知識から学ばせていただいたので、分かりやすかった。

・障害とはについて考えるのが一日目は難しかったですが、5日目は色々と体験したことを踏まえて考えることが出来たのでとてもいい経験になりました。

・内容は非常に良かったが、時間が長いと思った。短縮できるところは短縮してもらった方が、講義を受けやすいと思った。

・1日目と2日目にもう少しグループワークなど話し合う時間があったらいいなと思いました。

- ・当事者視点のお話を沢山聞いて良かった。
- 「見学体験の感想を自由に記載してください」
- ・当事者の方達の自身の障がいに対する考え方や生活の様子を知り、必ずしも苦しいことばかりの人生ではないのだということを知ることができた。介助者は当事者とのコミュニケーションを充実させ、当事者の意思を尊重していく必要性を強く感じた。
- ・実際に当事者さんの生活を見ることができ、とても良い経験になったと思う。自分が思っていた「障害者」の像と、実際の障害者というのは全然違った。凄い苦勞をしながら生活をしているという先入観を持っていたが、実際はもっと自由に、楽しく生活を送っていて、自分たちと全然変わらないなと感じた。世間一般の持つ思い込みを変える必要があると思った。
- ・もっと色々な症状の当事者さんの介助を見学したい。
- ・街に実際に出て気をつけるべきことを沢山学べた。

■アンケート（受け入れ当事者9名回答）

「カリキュラムの目的・目標は明確でしたか」

→とてもそう思う 88.9%、そう思う 0%、あまりそう思わない 11.1%、そう思わない 0%

「目標に対して見学・体験の期間は適切でしたか」

→短すぎる 11.1%、ちょうど良い 66.7%、長すぎる 0%、もう少し時間がほしい 11.1%、2日間あるので、集中力が続く時間でぎゅ！っとやる感じにして一日のうち4時間ずつ位でもよいかも 11.1%

「学生は見学・体験に対して積極的に取り組んでいましたか」

→とてもそう思う 88.9%、そう思う 11.1%、あまりそう思わない 0%、そう思わない 0%

「学生の様子について」

- ・言葉遣いもとても良かったし、外出時は着替えるなどもマナーが良かった。そしていきなりのアンビュウに対してもやると言う意志がはっきりしていたし、その他も見学して覚えようと言う気がしっかり見えたので2日目実際体験してもらうのに戸惑いはなかった。
- ・学生さんの医療者としての意識が高くびっくりしました。こちらも非常に勉強になりました。
- ・私に遠慮しすぎて、あまり踏み込んだ質問はなかった。
- ・二人があまり得意じゃないと言っていた料理に挑戦してもらいました。必死さのあまり無音になった時はちょっとドキドキしましたが、一生懸命さが伝わりました！障害のことだけでなく楽しいことや好きなことについての質問があり、当事者の生活を理解しようとしてくれることが嬉しかったです。

「困ったことについて」

- ・特にありません

「カリキュラムのご意見・ご感想」

- ・1人の子が自分は小児科を目指していたけれど今回の体験、見学で考え方が変わってもっと良く考えようと言ってくれた事、介護の仕事に興味を持ったと言ってくれた事がやってるこっちが言ってもらえてやって良かったととても思った。
- ・講義を聞いたあとに、実習というスタイルが素晴らしく、実習の目的も明確化されていて、とてもよかったです。

・弊社の社内研修として、ヘルパーの主体性・専門性・多様性を育むことができる研修をお願いしたいくらいです。

・病気の事や現場の事を知ってもらえることで、次に繋がって行くので今後も是非協力していきたいです。

日本医療大学

① 概要

日 付：2022年9月7日～11日

場 所：日本医療大学月寒キャンパス

参加者：学生 38 名（理学療法学科 1～3 年生）、体験受け入れ当事者 15 名

② 内容要旨

・4日間の講義と1日間の見学体験

③ 詳細内容

■公式 note にて報告レポートを作成 https://note.com/npo_sakaiwokoete/n/n178e8407b00b

■アンケート（受講学生 38 名回答）

「カリキュラムは満足できる内容でしたか」

→とてもそう思う 84.2%、そう思う 10.5%、あまりそう思わない 0%、そう思わない 5.3%

「カリキュラムの目的・目標は分かりやすく示されていましたか」

→とてもそう思う 81.6%、そう思う 13.2%、あまりそう思わない 0%、そう思わない 5.3%

「講義の難易度はどうでしたか」

→とても簡単だった 23.7%、簡単だった 15.8%、難しかった 44.7%、とても難しかった 15.8%

「講義の内容に興味・関心は持てましたか」

→とても持てた 78.9%、持てた 18.4%、あまり持てなかった 0%、持てなかった 2.6%

「講義の感想を自由に記載してください」

・全体的にすごく分かりやすかったです。でももう少し時間通り進んで欲しかったです

・障害についてこんなに考えさせられるのは初めてでしたが、これから生活していく上でもこの講義を受けた事で人との接し方や見方がすごく変わった気がします。

・保険の話が難しかった

・当事者本人から授業をしてもらって想像しやすく、自分も障がいをもってしまったらどのようにするのかなど考えることができたのでとてもわかりやすかったです。

・障がいについて考える講義では、自分の考えの他にも周りの考えを交流することで、参考になることも多かった。しかし、1、2日目はGWの時間が短かったと思う。

・いままで地域のことは授業でしか習ったことがなくて、このあと理学療法士になれたとして地域にでたいかと言われたらあまり出る気はなかった。しかし、この講義を受けて地域に出る難しさも知れたがそれ以上にすごく楽しかったので今までより興味がわいた。この授業が1年生の時にされていたらPA制度を利用してみたかった。

・最初は障がいとかという大きな疑問に対して漠然としか考えることができませんでしたが、授業で色々なことを学んでいく中で色々な障害やそれに対する措置の仕方、考え方を知り、ま

だ障がいとは何と答えを定義することは出来ませんが、何と聞かれた時に考える素材？要素？になるようなものはたくさん知れたし、考えることができました。実際に障がい者と呼ばれる方々にお会いして、その人たち個人個人の感じ方を聞くことができるとても良い経験になったと感じました。

・この学校に入る前は理学療法士というのはスポーツで怪我をした人を治すというのがメインだと思っていた。しかしこの講義を受け、様々な人の生活のお手伝い、復帰させることがメインであって、スポーツ障害はその中の 1 部に過ぎないんだなって思った。山田さんのように障がいを持っていても成し遂げたいことがある人を見てかっこいいと思った。私なら障がいを持ってしまったことのショックにより立ち直れるかすら分からない。その中で頑張る人をみてサポートしたいという気持ちになった。

■アンケート（受け入れ当事者：実施できず）

東北文化学園大学

① 概要

日 付：2022 年 9 月 15 日～19 日

場 所：東北文化学園大学

参加者：学生 14 名(理学療法学科、言語聴覚学科、看護学科の 1・4 年生)、体験受け入れ当事者 6 名

② 内容要旨

・3 日間の講義と 2 日間の見学体験

③ 詳細内容

■公式 note にて報告レポートを作成 https://note.com/npo_sakaiwokoete/n/ne246b7dc4e70

■アンケート（受講学生 11 名回答）

「カリキュラムは満足できる内容でしたか」

→とてもそう思う 72.7%、そう思う 27.3%、あまりそう思わない 0%、そう思わない 0%

「カリキュラムの目的・目標は分かりやすく示されていましたか」

→とてもそう思う 63.6%、そう思う 36.4%、あまりそう思わない 0%、そう思わない 0%

「講義の難易度はどうでしたか」

→とても簡単だった 0%、簡単だった 45.5%、難しかった 54.5%、とても難しかった 0%

「講義の内容に興味・関心は持てましたか」

→とても持てた 72.7%、持てた 27.3%、あまり持てなかった 0%、持てなかった 0%

「講義の感想を自由に記載してください」

・体験をもう少ししたかった

・講義の参加前と後では、重身に対して良い方に考え方に変化があり、本当に良い経験になりました。今回の経験や、考えたことを忘れないようにしていきたいです。勉強も頑張ります。

・障がいの事はもちろん、介助者のことも知れてよかったです。

・全く ALS や難病に関しての知識がなかったから、すごく良い機会だった。難病についても深く知れて、実際に体験や見学にいけてとても嬉しい。

・いろいろな症状の当事者さんがいるということが分かりやすかったです。

アンケート（受け入れ当事者4名回答）

「カリキュラムの目的・目標は明確でしたか」

→とてもそう思う75%、そう思う25%、あまりそう思わない0%、そう思わない0%

「目標に対して見学・体験の期間は適切でしたか」

→短すぎる0%、ちょうど良い75%、長すぎる0%、スケジュールが沢山ある日は良いのですが、ない日は待機が多くて長いかと思いました25%

「学生は見学・体験に対して積極的に取り組んでいましたか」

→とてもそう思う100%、そう思う0%、あまりそう思わない0%、そう思わない0%

「学生の様子について」

・生徒さん一人一人が我々障がい者と真剣に向き合い取り組んでいただいたと感じます。

・挨拶も態度もしっかりとしてよかったです。まっすぐな目でたくさん質問を用意してくれて答えながらまとまりのない内容になってしまいました。これでよかったかなと考えてしまいました。

・2日間とも、沢山質問を考えて来てくれました。熱心に取り組んでいたと思います。

「困ったことについて」

・ヘルパー事業所さんによって、受入れの感度が異なること。

「カリキュラムのご意見・ご感想」

・学生の真摯な質問は新鮮でした。知ろうとしてくれているのも伝わり、うれしかったです。重度の障がい者が地方でも地域で生活していることを知ってもらえたのはよかったです。その先のもう一步となるものをもう少し学生に提供できたらと思いました。

・どこに就職するにしても、在宅の様子を知ることは必須だと思うので、多くの学生さんに受講して欲しいです。

・ああした超実践的なカリキュラムはほんとうに良いと思います。ある意味隔絶された状況にある重度障害者本人から声を中心に据え、伝えること、そしてGWでしっかりと受講者同士の共有がなされていたかと思います。

杏林大学

① 概要

日付：2022年10月13日（講義）/11月10日・17日（実習）

場所：杏林大学三鷹キャンパス/当事者宅

参加者：医学部2年生－講義117名、実習8名

② 内容要旨

- ・事前学習
- ・講義1コマ
- ・実習

③ 詳細内容

- ・公式noteにて報告レポートを作成 https://note.com/npo_sakaiwokoete/n/nfe1d2f3f67a5

3. 学生体験受け入れ先募集説明会

学生体験受け入れ先募集説明会

① 概要

日 付：2023年2月27日

方 法：zoom/YouTube ライブ配信

後 援：全国自立生活センター協議会

② 内容要旨

- ・学生体験受け入れ先募集説明会

③ 詳細内容

- ・団体説明
- ・本プロジェクト説明
- ・質疑応答

Ⅲ. まとめ

地域生活の視点で学ぶ重度身体障がい者の暮らしー「地域で暮らす」を覗いてみようカリキュラム化プロジェクトは、今年度は3年目を迎えた。開催大学の反応、受講生、見学・体験受け入れ当事者のアンケート結果から本プロジェクトは地域で暮らす当事者を支える人材の土台形成として一定の成果があると考えられる。次の課題としては、本カリキュラムの質を担保した状態でのその地域、大学の情勢にみあった形でのカリキュラムのブラッシュアップ、講師陣、運営の仕組み化があげられる。今年度完成したテキストと教則本並びに構築したネットワークを生かした取り組みが来年度以降の課題となった。